

リニューアルオープン図書館長挨拶

附属図書館長 郡 千寿子



本日は、お忙しいなか、附属図書館リニューアルオープンの式典にご臨席いただき、ありがとうございます。文部科学省からは、遠路、鈴木研究振興局参事官にご臨席いただき、本学関係者だけでなく、県内の教育関係機関からも多数ご臨席いただきましたこと、大変うれしく光栄に存じます。

旧図書館は、昭和45年の建設ですので、44年ぶりの耐震改修工事となりました。設計準備段階から、前館長の長谷川成一先生、現学生課長の工藤課長が陣頭指揮をとり、ご苦勞されてこられました。本日無事に、リニューアルオープンを迎えることとなりましたが、あらためて、附属図書館の歴代館長や図書館職員の方々が、今まで築いてこられた数々のご功績に敬意を表し、その伝統を受け継ぐことに重責を感じております。

図書館の歴史は古く、世界的には、紀元前7世紀のアッシリアの図書館、紀元前3世紀のアレクサンドリア図書館などが有名です。日本においては、8世紀、律令制の時代に誕生した「図書寮(ずしょりょう)」が最古といわれています。一般のために開かれた施設ではありませんが、「文殿(ふみどの)」に、国家の蔵書や仏教・儒教関連の書物などを保管し、あわせて国史の編纂、本の装丁、仏像の管理も行っていました。

公開の図書館としては、奈良時代後期、大納言の貴族、石上宅嗣が平城京(私の故郷、現在の奈良市)に創設した私設の図書館「芸亭(うんてい)」が最も古い図書館として知られています。蔵書を開放し、教育機関としての機能も持っていました。実は、「図書館(としょかん)」と呼ばれるのは意外に新しく、幕末明治初期には、「文庫」「書院」「書庫」などと呼ばれ、「図書館」は使われていませんでした。「図書館」が使われるのは、明治20年以降で、当初、よみは「ずしょかん」「としょかん」の二通りありました。もっぱら「としょかん」と呼称されるようになるのは、大正(1912年)以

降のことです。国家の成熟や発展とともに、図書館の役割や機能、また名称も変化を遂げてまいりました。

さて、本日、弘前大学附属図書館も、新たな役割や機能を備え、弘前大学の中での大きな使命を担って活動を再開いたします。

附属図書館は、大学の教育研究にとって必要不可欠な重要拠点です。学術情報の集積という、従来の役目はもちろん果たさなくてはなりません。しかし今後は、地域に開かれた、知の交錯する場所、という機能がより重要になってくると思います。今や、座ったまま、自宅や研究室にいながらにして、わざわざ図書館に足を運ばなくても、必要な本や資料、情報を手に入れることができます。自分で必要だと思ったことに関しては、インターネットの活用によって事足り、大変便利な時代になりました。

しかし一方で、そうした環境では、自分の想定内の世界を見ることしかできないともいえます。図書館を散策することで、今まで全く頭に浮かんだことのない本や資料に出逢い、全く新たな発想を生むきっかけをつかむことができるかもしれません。また、今まで話す機会がなかった、専門分野の違う友人や先生と出逢い、意見交換することができるかもしれません。

想定外の世界を知る、違う自分を発見する、そんな可能性が見つかる、知識の交流が生まれる図書館利用が広がればと期待しています。

また今後は、教育にも積極的に関与していきたいと考えています。情報源をどう利用すれば、学生の認知や思考が活性化し、学習効果を生むのか、そうした学習支援についても、図書館の果たすべき役割のひとつとして検討して参ります。社会や地域と、図書館がどのように連携できるかも課題のひとつです。

ここで図書館がどのように変わったか、簡単に

お話いたします。耐震とともに、バリアフリー化を図り、安全な環境を実現したこと、多様な学習環境を提供する「ラーニングコモンズ」を充実したこと、閲覧室の機能改善など学習環境の整備充実を図ったこと、そして、資料収蔵能力を向上させたこと、が大きな改修ポイントです。図書館外観でいえば、2階の入り口を1階にし、総合教育棟側に移動しました。身障者用のエレベーターやトイレの設置、階段を広くするなど、安全性にも配慮しています。

図書館入口すぐに総合カウンターを配置し、利用者の利便性を向上させました。案内表示も統一性のとれたものとなり、館内では、青森の伝統文化、こぎん刺しやサクラ、弘前城などのモチーフを見つけることができますでしょう。

教育的な機能の充実は、今回の改修ポイントでもあります。グループ学習や少人数での主体的な学修を支援するためのスペースがいくつか設けられています。館内の新しい什器、かわいい机や椅子は、どんなものが使いやすく、どんな配色のものが学ぶ環境にふさわしいか、現場の図書館職員が議論しながら、一生懸命に選定してくれたものです。

リフレッシュするスペースとして、オープンラウンジとオープンテラスを設け、このエリアのみ、ペットボトル飲料などが持ち込めるようになりました。

弘前大学らしさ、青森の地域色を何とか出したい、と1階閲覧室のテーブルパネルには、こぎん刺しを採用し、ブナコのペンダントライトを取り

入れました。少し高価だったことや設置場所などに課題があり、大変苦勞しましたが、三上課長はじめ業者の方々がそれぞれに尽力していただき、実現することができました。

資料の保管については、新しく集密書架を設置し、約10万冊収蔵能力を向上させています。3階部分は、パソコンサテライトと視聴覚資料が利用できるブースになっています。

このリニューアルオープンのお機会に少しでも弘前大学の附属図書館に興味をもっていただき、本学の学生や教職員だけでなく、地域の方々も足を運んでくださればと願っています。多くの方が立ち寄り、利用したくなる図書館でありますよう、今後も皆様からのご意見を頂戴しながら、日々努力して参ります。

最後になりましたが、改修にあたっては、多くの関係部署に多大なご協力を賜りました。

学長先生はじめ、お世話になった教職員すべての方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。大学を取り巻く社会や環境は、大きく変化しています。図書館だけが従来のものであってよいはずはありません。今後、弘前大学の図書館としてどうあるべきかはもちろん、地域社会や教育にも貢献する図書館像を意識し、新たな諸課題について、気持ちを引き締め、職員一同、研鑽を積む覚悟でございます。

今後の叱咤激励とご支援ご協力をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

(2014年10月1日)

(こおり ちずこ)